



TITLE:

新[著]即報

AUTHOR(S):

CITATION:

新[著]即報. 地球 1928, 10(6): 464-467

ISSUE DATE:

1928-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183526>

RIGHT:

にして内容が空虚なる著書の四、五百頁のものには相當する。五十一字詰、十八行の充實した各頁は九ポイントの鮮かな活字で組まれ、百四十五の圖版と共にハチキレさうな内容を盛つて居る。本書は著者が鐵道省技師である關係上問題な主として鐵道工事と地質學との上に集中して居る。従つて本書は其の内容に於いて土木地質學第一巻とすべきであらう。何となれば土木地質學全城を蔽ふ爲には更に水力電氣工事に關するもの、地下水、温泉等に關するもの、都市計畫や道路に關するもの等が鐵道に必要な土木地質學を除いても尙ほ必要であるからである。

土木工事上に必要な地質學は今や通り一邊の教科書流や大學の講義などを以つて充たされる事が出來ない。鐵道の路線が九分九厘まで決定されたる後に、其の線路を四・五米乃至數百米の少量だけ移動する事によつて或は斷層を避け或は礫岩を避けて砂岩中を貫く事によつて多額の經費を節約し得るのである。又た本書にはないけれども東京市の地下にある各部分の沖積泥土の厚さを決定する事に依つて其の上に建設せらるべき家屋の高さが決定され又耐震工事の程度が決定されるに至るのである。

本書附録に加へられたる「山崩れの分類」「地質別切取及築堤法勾配表」「地質別基礎地盤許容荷重表」「本邦適用地質別切取及築堤法勾配表」の如き何れも最も貴重なる資料である。

實に本書は地質學と土木學とを直接に結び付け、引いては地質學が人生の福利に貢獻すべき一新面を指示せる日本語で

書かれたる最初の著書である。本書の出現には著者の優れたる頭腦と語學の力と鐵道省即ち社會の一方面に於ける斯學の要求とがあつた事を見逃す事が出來ぬ。評者は土木家のみならず空疎なる机上の地質學を弄んで居る士にも取えて一讀を勧める。(本間)

新著即報

○日本地質學地理學輯報第六卷第一一二號九月

Jurassic plants from the Fang-tsu Coal-field,

Shantung. (H. Yabe and S. Ôshi).

A new species of *Protoblaetium* from the Hei-Shan

Coal-field in Shantung. (H. Yabe and S. Ôshi).

Notes on some interesting fossils from South

China. (H. Yabe).

A new Palaeogene species of *Sequoia* (S. Endô).

Some characteristic features of the ore deposits

of Japan, related genetically to the Late Tertiary

Volcanic activity (T. Katô).

A note on *Hemiphyris "Psittacea"* (Brauns) from

Hitchin province. (I. Hagsata)

A new species of *Sphenophyllum* from Shansi,

China (H. Yabe and S. Ôshi)

On the geology of the Tanzawa Mountainland,

with special reference to the Misaka metamorphics.
(M. Yossii)

A note on *Protoblechnum wongii* Halle. (H. Yabe
and S. Ushii)

○Stratigraphy of China, Part 2. Mesozoic. By A.

W. Grabau. 1928. 北平中央地質調査所

○The lower molar Homimid tooth from

the Chou Kou Tien deposit. (D. Black). *Palaent-*
ologica Sinica. D. Vol. VII, Fasc. 1. 1927.

○中央地質調査所地質彙報 第十號 一月

綏遠大青山煤田地質(王竹泉)

直隸宣化涿鹿懷來三縣間地質鐵產(譚錫禧)

直隸宣化一帶古火山之研究(王恒升)

○佐藤傳藏先生を憶ふ(富田達)史蹟名勝天然紀念物 第三

集第十號 十月

○The Pan-American Geologist. Vol. L, No. 2. September.

Symmetric disposition of Tertiary Mountain systems.

(D. W. Longfellow)

Major earth features and their transformation.

(F. X. Schaffer)

○郷土 第二卷四號 十月 長野縣上伊那郡伊那富郷土研

究會

伊北段丘(北原寛)

信濃の官牧に就て(原徹志)

新著即報

○蝦夷地誌集 第三 松浦竹四郎著 日本古典全集 第三期
第二回配本ノ内 七月

○志賀重昂全集 第二卷(歴史地理篇、人文地理學講義、外國
地理參考書) 九月 同集刊行會

○長野縣小縣郡長村菅平瞥見記(菅平に關する地理的事情)三

澤勝衛著 菊一六頁 十月 上田商工會議所刊

○朝鮮の災害 善生永助編 (調査資料第二十四輯) 九月

朝鮮總督府

○石炭 河村信一著 十月 古今書院 價二圓二〇

○日本學術協會報告 第三卷(昭和二年度仙臺)十月

最近六十年間に於ける我邦學術の進步發達(櫻井鏡二)

埋木とツンドラの化學(小松茂)

撫順炭の顯微鏡的構造(岩崎重三)

北太平洋南西部の海底地質(半澤正四郎)

富士火山帶上の一地域として觀たる長野縣中部の地質構

造(本間不二男)

秋田斷層即ち天長大地震の震源に就て(大橋良一)

火山活動の豫報の可能性(大橋良一)

硫化鐵物電極につて(松原厚)

朝鮮地質構造論序説(中村新太郎)

丹澤山地の地質(吉井正敏)

本邦玄武岩の磁性に就て(松山基範)

我國に於ける第三紀末期の火山活動に起因する鐵床の特

性(加藤武夫)

要覽

七一

本邦測量作業に於ける基線測量の總覽(大村齊)

本邦湖沼に就ての二三の研究(田中阿歌磨)

臺灣日月潭の浮島に就て(神谷辰三郎)

人類學上より見たる日本民族(小金井良精)

日本人の體質(足立文太郎)

工業と都市と仙臺(佐藤功一)

地球の運動(木村榮)

◎大阪都市計畫圖 大阪市役所土木課編 (二萬分一)九月

大阪都市協會刊 定價一圓二十錢 軸製三圓

◎世界鐵產概勢 渡邊萬次郎著 (古今書院パンフレット)十月 三五錢

◎地學雜誌 第四〇年第四七六號(十月號)

臺灣に於ける溫泉分布(大江二郎)

白頭山(一) (山成不二磨)

岩鉛鐵及其產地並に岩鉛鐵から見た日本及支那(一) (植村癸巳男)

丹後地震及其地變(一) (渡邊久吉・佐藤支止)

秋吉臺カルスト(石灰岩景觀)(三) (佐藤傳藏)

柘榴石に就いて(木下龜城)

◎Bibliography of the Japanese Empire 1906—1926.

Compiled by Oskar Nachod, 2 vols. 1928. Leipzig.

K. W. Hiersemann. \$2.10s

◎東京帝國大學理學部紀要第二類地質學礦物學地理學地震學

第二冊第七號 九月

◎Pliocene Shells from Hyuga. (M. Yokoyama)

Neogene Shells from the O-I-Field of Higashiyama

Echigo. (M. Yokoyama)

◎河底の砂粒 市村毅著 七月 朝鮮印刷株式會社 非賣

△京都近郊地形圖 二萬五千分一 (四色刷) 十月 陸地測

量部 價三〇錢

◎Palaeontology and the Evolution of Japan. By

D. M. S. Watson. (The Romanes Lecture). 1928.

Clarendon Press, Oxford.

◎地質學雜誌 第三五卷 第四二〇號 九月

隱岐島後の地質學的並に岩石學的研究(富田達)

四國祖谷溪谷の含礫片岩に就いて(鈴木醇)

◎鐵業 第五卷 十月號

朝鮮無煙炭層の探鑛法(吉川岩喜)

◎Mineral resources of northern Manchuria (in Russian)

By E. Amnert. 1928. Manchuria Research Society,

Harbin. 4\$

◎地理教育 第九卷 第二號 十一月

アメリカ、地中海及其の陸環の國家的形象(飯本信之)

北九州統豐東部地貌を横斷する豐津地溝(東木龍七)

臺灣東南方の一孤島紅頭嶼に就て(宮内悅藏)

大阪平野の發達(一)(伏見義夫)

國際石油地理論(六)(田上政敏)

○地理學評論 第四卷 第十一號 十一月

大阪府下の灌漑農業(上)(山極二郎)

能登半島基部を中心とする古地理及び地形發達史(望月勝海)

東部筑豊地塊南部の地形發達史(一)(東木龍七)

廣島縣高田郡上根附近の地貌(下村彦一)

○日本鑛業會誌 第四四卷 五二二號 十月

本邦の金銀鑛床(平林武・西尾滋)

臺灣の金銀鑛床に就て(高橋泰吉)

○Ueber Erhaltungszustände von Muscheln und ihre Entstehung. (Werner Quenstedt).

Palaeontographica, Bd. LXXI, Lief. 1-2, 1928.

○Petersmann Mitteilungen, 74 Jahrg. Heft 9/10, 1928

Beobachtungen über Strukturböden in den Ostalpen

(H. Künzl)

Verlauf und Ergebnisse meiner Zentralasien-Expedition 1927/1928. (E. Trinkler)

Die deutsche Umschrift des Chinesischen(L. Kalf)

Die deutsche Regelung der Umschreibung der

ostasiatischen geographischen Namen.

(A. Hermann)

○科學知識 第八卷 第十一號 十一月

我邦に於ける地球儀の歴史(高木菊三郎)

二百五十年前の三崎の地圖(谷津直秀)

雜 報

○民俗藝術 第一卷 第十一號 十一月

上州と甲州の民家(今和次郎)

○文教の朝鮮 十月號

濟州島の地質學的觀察(川崎繁太郎)

○富士の歴史 井野邊茂雄著(富士の研究I) 十一月 古今

書院 定價四圓二十錢

雜 報

○圖 版 解 說

濟州島漢擎山 (上圖) 漢擎山は朝鮮絕南の海中に盤

踞せる一大孤島即ち濟州島の畧中央に屹立する秀峰にして高距海拔二千米に及ぶ。其の風姿實に儼然とし五六月の頃と雖も尙曖々たる白冠を載き其餘脈は蜿蜒として四圍に垂れ其上に三百有餘の寄生火山を従ふ。挿圖は其絶嶺の一部を東南方より見たるものにして中央は白鹿潭と稱する大口湖にして碧水を湛ふ。往時早魃に際しては、牧使は此處に祭壇を設けて雨乞をなしたりと云ふ。手前の磊々たるは新しき噴出にかゝる黑色玄武岩礫にして左方の峻崖は美しき柱狀節理をなせる灰白色のアルカリ粗面岩塊なり。此の岩質を火口の兩半に於て全く異にせるは特に吾人の興味を惹く所なり。遠くに見ゆる圓錐山は斗星峯及び御乘生岳なる二寄生火山なり。

濟州島住民 (下圖) 本島の住民に就きては人文地理

圖 七三